



会社案内 2026



ヤマハの歴史は1887年、創業者である山葉寅楠がリードオルガンの修理をきっかけとして、オルガン製作に成功したことに始まります。以来130年以上にわたって、楽器を中心とするさまざまな製品・サービスを提供し続け、世界中で広く親しまれるブランドとなりました。

私たちは
音・音楽を原点に培った技術と感性で
新たな感動と豊かな文化を
世界の人々とともに創りつづけます。

MESSAGE

FROM THE PRESIDENT

音・音楽の力で、 人々の個性輝く未来を創ります

ヤマハグループは「感動を・ともに・創る」を企業理念に掲げ、音・音楽を通じて世界中の人々のこころ豊かに暮らしに貢献することを目指しています。

また、ブランドプロミス「Make Waves」には、お客様の心を震わせる瞬間を生み出し、自ら一歩踏み出そうとする人々に寄り添い、その感性を刺激し表現を支える存在であり続けるという決意を込めています。

私たちを取り巻く事業環境は急速に変化し、顧客の価値観やライフスタイルの多様化、生成AIをはじめとする技術革新が加速しています。

このような環境変化を踏まえ、当社は経営ビジョンとして「音・音楽の力で、人々の個性輝く未来を創る—社会価値の共創を通じて企業価値を高める—」を定めています。これは、私たちヤマハグループが中長期的に実現を目指す姿です。

当社はこれまで同様、音・音楽を原点に培った技術と感性で製品の本質的価値を磨き続けます。あわせて、より楽しく、よりクリエイティブな、あるいはより便利な体験価値を加えるための取り組みを強化し、隣接領域へと事業を拡大していきます。

また、「サステナビリティを価値の源泉に」という方針のもと、事業を通じて培ってきた技術と感性を生かし、社会課題の解決に積極的に取り組んでまいります。重視したい視点は、「人」「社会」「地球」の3つです。音楽で人と人とのつながりをつくること、音があることによる安心と安全を提供すること、そして、音楽文化、楽器文化が持続可能であるように、地球規模での資源循環を実現すること。このような領域における音・音楽の新たな可能性を追求し、事業ドメインを拡大してまいります。

音・音楽には、人々に大きな影響を与える力があります。そして、私たちヤマハは、そんな音・音楽の持つ力に惹かれ、その力が人々のこころを豊かにすると強く信じています。これからのヤマハグループにご期待ください。

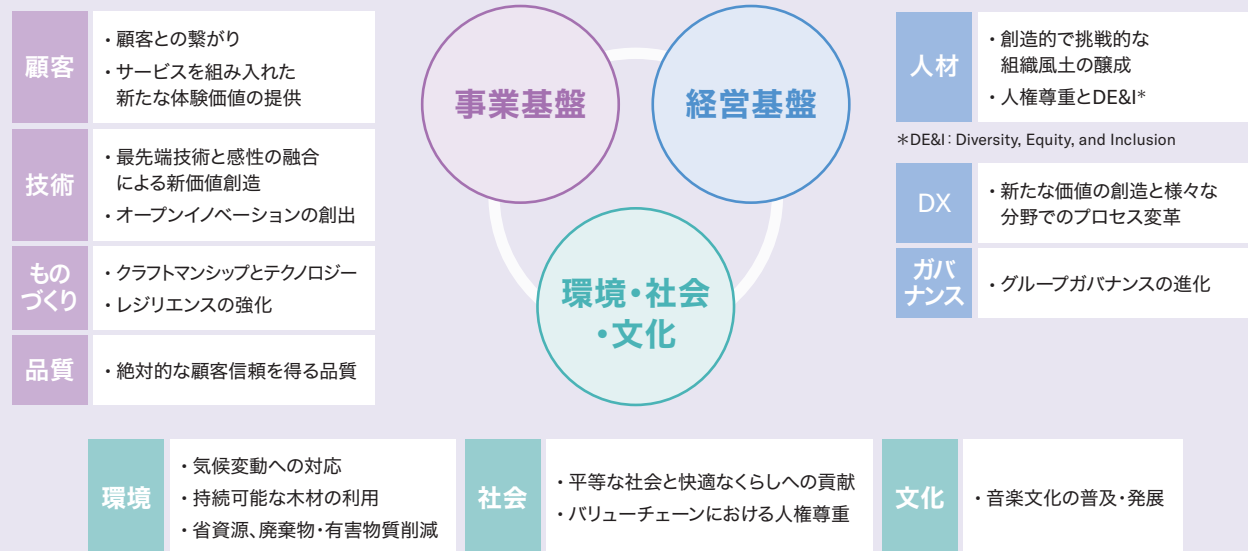
ヤマハ株式会社 代表執行役社長
山浦 敦



中期経営計画 Rebuild & Evolve (2025年4月～2028年3月)

ヤマハグループは、2025年4月からの3年間を対象とした中期経営計画「Rebuild & Evolve」を策定し、経営ビジョン「音・音楽の力で、人々の個性輝く未来を創る」の実現に向け、取り組んでいます。

マテリアリティ（経営の重要課題）



経営ビジョン

音・音楽の力で、人々の個性輝く未来を創る

社会価値の共創を通じて企業価値を高める

音・音楽の力

ヤマハの強み、ヤマハらしさが十分に活きる「音・音楽」領域において新たな価値創造の可能性を追求する

人々の個性輝く未来

世界中の人々の自己表現、多様な個性の発揮を後押しする製品やサービスをたゆまず提供していく

社会価値の共創

多様なステークホルダーと積極的に連携・協業し、社会課題の解決に資する新たな価値を共に創り上げる

重点課題と戦略骨子

重点課題

現在の主軸である既存事業の収益低下
収益力をコロナ前水準に回復することが最優先

中長期的な成長に向け、隣接・新規事業領域への
戦略的投資による育成・事業化が必要

中期経営計画

Rebuild & Evolve

戦略骨子

戦略方針①

強固な事業基盤の再構築

既存事業の収益改善と成長軌道への回復

戦略方針②

未来を創る挑戦

積極的な投資により事業・市場ドメインを拡大

戦略方針③

経営基盤の強化

持続的な成長へ向け資本効率向上・人的資本強化・ガバナンス進化

ヤマハの事業概要

「楽器事業」「音響機器事業」「その他の事業」の3つの領域で、グローバルに事業を展開しています。

事業別売上収益

国際財務報告基準 (IFRS)

音響機器事業

1,424 億円 (30.6%)

- ホームオーディオ機器
(サウンドバー／AVアンプ／HiFiコンポーネント／スピーカーシステム／ヘッドホン etc.)
- 音楽制作・配信機器
(音楽制作用ソフトウェア／オーディオインターフェース／スタジオモニター／ミキサー etc.)
- 業務用音響機器
(デジタルミキサー／スピーカー／シグナルプロセッサー／パワーアンプ／ユニファイドコミュニケーション etc.)
- ネットワーク機器
(ルーター／スイッチ／無線LANアクセスポイント etc.)
- モビリティ音響機器
(車載オーディオ／音声ソリューション／半導体 etc.)

その他の事業

180 億円 (3.9%)

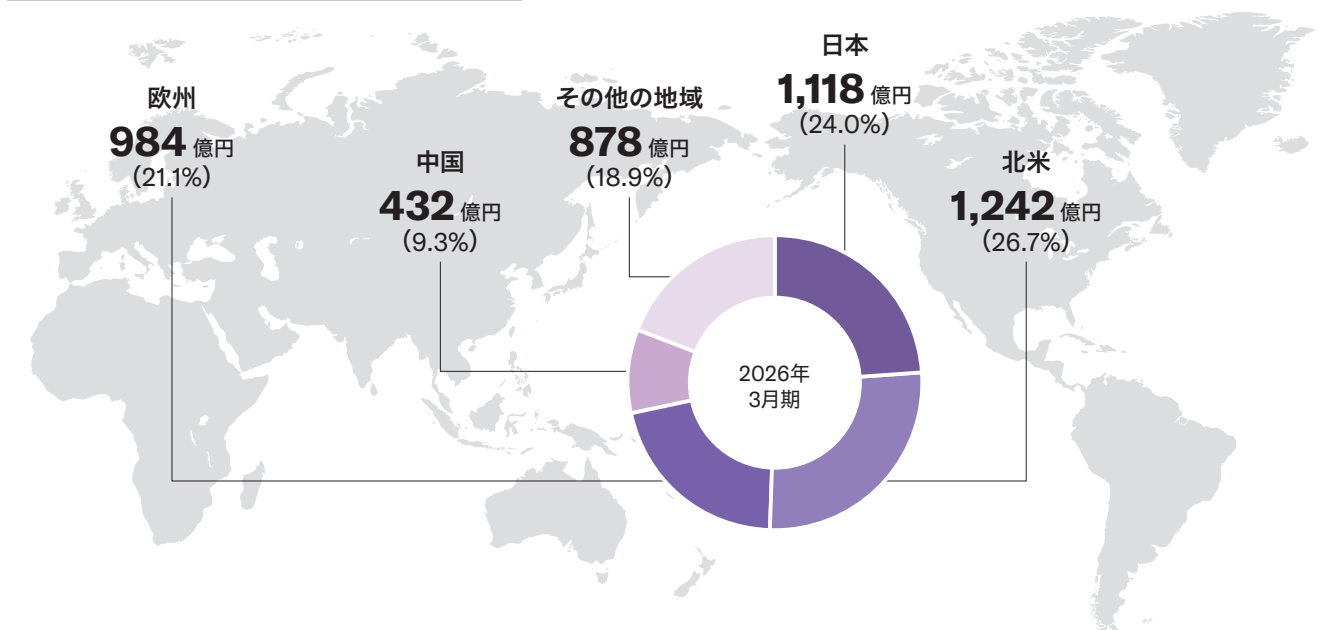
- 自動車用内装部品
- FA機器
- ゴルフ用品 (2026年6月末日終了)
- リゾート

楽器事業

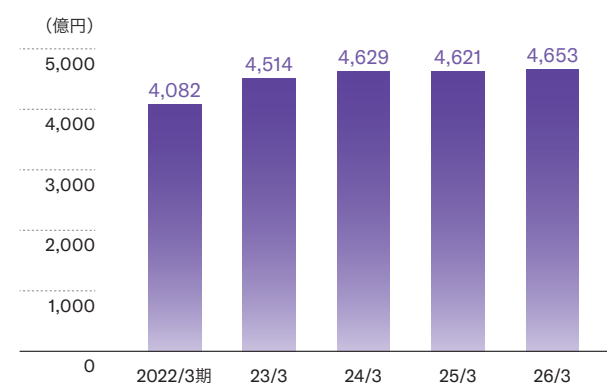
3,049 億円 (65.5%)

- 鍵盤楽器
(ピアノ／電子ピアノ／電子オルガン(エレクトーン®)／ポータブルキーボード／シンセサイザー etc.)
- 管楽器 (トランペット／フルート／クラリネット／サクソフォン etc.)
- 弦楽器 (ギター／ベース／バイオリン etc.)
- 打楽器 (ドラム／ティンパニ／マリンバ etc.)
- 教育楽器 (リコーダー／鍵盤ハーモニカ(ピアニカ®) etc.)
- 防音室
- 音楽教室・英語教室
- メディア・エンタテインメント
(楽譜・書籍出版／音楽配信／音楽プロダクション／音楽出版／レーベル事業)

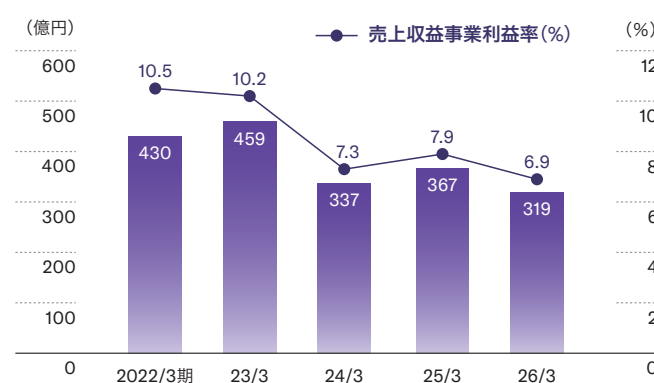
地域別売上収益



売上収益の推移



事業利益の推移



事業紹介

音・音楽を中心にした事業を通じて磨いてきた感性と多彩な技術を融合し、楽器、音響機器、その他の事業領域で、ヤマハならではの価値を生み出しています。



楽器事業

楽器の製造・販売、音楽教室等の運営、音楽・映像ソフトの制作・販売など多彩な事業を展開。初心者からプロフェッショナルまで幅広いユーザーに評価されるこれらの製品・サービスは、アーティストとの対話により進める研究開発やグローバルに展開するきめ細かな営業・サービス活動に支えられています。

鍵盤楽器

130年を超える歴史の中で培われた知見と熟練技能に裏付けられたアコースティックピアノから、先進のデジタル技術を駆使した電子楽器、そして、これらの技術の融合により生まれたハイブリッドピアノまで、豊富なラインアップを提供しています。



コンサートグランドピアノ
CFX®



グランドピアノ
C3X/C2X espresso®



電子ピアノ
Clavinova® CLP-885



ベーゼンドルファー
グランドピアノ
The Great Wave off
Kanagawa



エレクトーン®
STAGEA® ELS-03XR



電子キーボード
PSR-E483



シンセサイザー
MONTAGE® M8x

アーティストに愛される最高の楽器・サービスを目指して

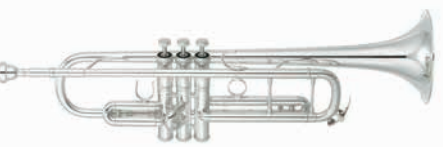
ヤマハは、東京、ニューヨーク、ロンドン、パリ、ハンブルクなど世界の主要都市にアーティストサービス・R&D（研究開発）の拠点をもち、アーティストが最高の演奏ができるようきめ細かくサポートするほか、世界中の演奏家に愛用される最高の楽器づくりのために、さまざまな形でアーティストと協働しています。高い技術とノウハウを生かした楽器のメンテナンスや修理、調律などでアーティストの信頼に応えるとともに、演奏家の求める音を表現する楽器を提供するためにアーティストとの対話を大切にし、製品開発に役立てています。

写真提供：浜松国際ピアノコンクール



管楽器

60年にわたる管楽器製造で培った匠の技と、木材・金属を精密に加工する生産技術力を結集して、最高の音色、響きと吹奏感を生み出しています。



カスタムトランペット
Xeno® Artist Model
YTR-9335CHS



カジュアル管楽器
Trova™ YTL-110



カスタムアルトサクソフォン
YAS-875EX



デジタルサククス
YDS-150

弦楽器

アコースティック、エレクトリックに加え、ヤマハ独自のサイレント™シリーズまでカバーする弦楽器は、多くの人に演奏する楽しみを提供しています。



アコースティック
バイオリン
Artida®
YVN500S



ラインシックス
Line 6
アンプ/エフェクト・プロセッサー
Helix® Stadium XL Floor



エレキギター
Pacifica® PACP12



トランスアコースティック™ギター
TAG3 C



エレクトリック
バイオリン
YEV105PRO



コルドバ
Córdoba
エレクトリック・
ナイロン弦ギター
FUSION 12
White Sands



アンプ
Ampeg
ベースアンプ
Rocket Bass®



サイレントギター™
SLG200S

打楽器

世界中のトップアーティストとともに追求してきた音・打感、そして高い信頼を得てきた操作性・堅牢性により、プレーヤーのパフォーマンスを最大限に引き出します。



アコースティックドラム
Live Custom®
Hybrid Oak



電子ドラム
DTX6K5-MUPS



コンサートマリンバ
YM-6100

教育楽器

リコーダーやピアノなどの教育楽器の提供を通じて、子どもたちに音楽の楽しさ、演奏する喜びを伝えています。



ピアノ®
P-32EO

ソプラノリコーダー
YRS-401
(バイオマス素材使用)



防音室

楽器演奏はもちろん、動画配信用のプライベートスタジオや在宅勤務などにも幅広く使える防音室。用途を問わず最適な音環境をつくり出します。



アビテックス®
CEFINE® NS

音楽教室(YAMAHA MUSIC SCHOOL)・英語教室

40以上の国と地域で幼児から大人までを対象にYAMAHA MUSIC SCHOOLを展開し、音楽文化の普及に貢献。英語教室は、歌やリズムで楽しく生きた英語が身につくヤマハならではのレッスンが人気です。



YAMAHA MUSIC SCHOOL



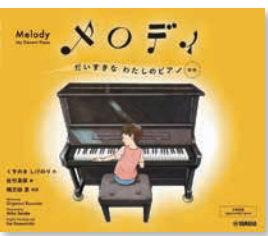
ヤマハ英語教室

メディア・エンタテインメント

楽譜・書籍・雑誌の出版、音楽および楽譜の配信、アーティストマネジメント、音楽出版、レコードレーベル等、エンタテインメント関連の事業を幅広く展開しています。



Blu-ray/DVD
『THE FILM of Nakajima Miyuki II』



絵本

一人ひとりの音楽体験をもっと豊かに —Music Connect® 事業

Music Connect事業では、「人と音楽は、もっと近くなる。」をコンセプトに、テクノロジーの力で人と音楽の可能性を広げ、かけがえのない音楽体験をお届けすることを目指しています。「ヤマハミュージックスクールオンライン」「SYNCROOM®」「Extrack®」「METRONOME」「Guitar Tuner」など、楽器演奏や学び、人とのつながりを支える多彩なデジタルサービスを展開。さらに、Yamaha Music IDを通じて、楽器・サービス・アプリをつなぐメンバーシッププログラム「Yamaha Music Connect」を国内・欧州で展開し、世界の主要地域へと順次拡大しています。お客様一人ひとりに寄り添いながら、より長く音楽や演奏を楽しんでいただけるよう、今後も新たな価値やサービスの創出に挑戦していきます。



Yamaha Music Connect | <https://member.jp.yamaha.com/info>

体験と共創で若者とつながる Yamaha Sound Crossing Shibuya

ヤマハのブランド発信拠点として渋谷に誕生したYamaha Sound Crossing Shibuyaでは、フレキシブルな空間でヤマハの最新楽器や先進技術进行を展示し、音・音楽の魅力を「体験」としてお届けしています。アーティストやIP(Intellectual Property)コンテンツとの共創・融合企画を通じて若者との接点を生み出し、製品理解にとどまらない顧客体験を創出しています。さらに、渋谷での成功事例をグローバルに展開することで、ブランド認知と共感の拡大を図り、新たな顧客層の開拓やエンゲージメント強化につなげています。



<https://www.yamaha.com/ja/about/experience/yamaha-sound-crossing-shibuya/>

音響機器事業

「音・音楽」をコアとして培ったデジタルとアコースティックの技術を生かし、コンシューマー向けから業務用まで多彩なソリューションを提供しています。ホームオーディオ機器、音楽制作・配信機器、業務用音響機器、ネットワーク機器、モビリティ音響機器など幅広い製品で構成されています。

ホームオーディオ機器

ヘッドホンから、サウンドバー、そして本格的なホームシアターやHiFiオーディオまで、多彩な音楽の楽しみ方を提案しています。音楽の感動を知り尽くしたヤマハが、目の前でアーティストが演奏しているかのような本物の音体験—True Sound[®]—を届けます。



音楽制作・配信機器

ソフトウェア技術とシームレスに融合した音楽制作機器は、音楽をつくる楽しみを身近にし、より表現力豊かな音楽制作を可能にします。また、直感的な操作と独自の音声処理を備えた配信機器は、配信者と視聴者双方に没入感の高い音楽・ゲーム体験を提供します。



世界中の会場でコンサートやイベントを支える業務用音響機器

ヤマハの業務用音響機器は、音質の良さやレスポンスの良い操作性、プロフェッショナルな現場で求められる信頼性、最先端のオーディオネットワーク技術などを評価され、小規模なイベントから大型のコンサートホールまで幅広い会場で採用されています。ヤマハのデジタルミキサーやプロセッサーとともに、NEXOのスピーカーシステムやSteinbergのソフトウェアが導入される例も多く、ヤマハグループの総合力を生かしたソリューションを提供しています。また、会議室や店舗などの商業空間向け音響の分野においてもトータルソリューションを提案しています。



米国カリフォルニア州のイーストサイド・クリスチャン教会に設置された音響機器

主な納入事例	
新国立劇場 (東京都)	
東京国際フォーラム (東京都)	
JR東日本四季劇場 (東京都)	
大和ハウス プレミストドーム (北海道)	
兵庫県立芸術文化センター (兵庫県)	
ロンドン交響楽団 (英国)	
フー・ファイターズ ワールドツアー	
商業空間向け音響	
アルタ・ルミナ・ナイトウォーク (フランス)	
カタル大学スポーツイベント複合施設 (カタル)	

業務用音響機器

オーディオネットワーク技術を生かしたヤマハの業務用音響機器。世界の著名なホール、劇場、コンサート会場などに導入されているだけでなく、店舗、会議場などの商業空間に向けた音のトータルソリューションも提案しています。



ネットワーク機器

業種を問わず、中小規模の企業拠点や店舗などに広く採用されており、ルーターやスイッチ、無線LANアクセスポイント、セキュリティソリューションなどで安定したネットワークを提供しています。



モビリティ音響機器

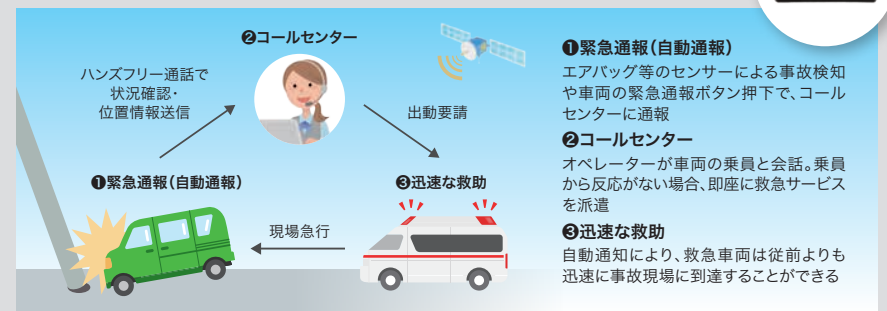
音響機器の開発で培った技術力をベースに、“音楽が生まれた瞬間の感動を届けたい”という想いのもと、自動車ごとのコンセプトにふさわしい音響空間を創り出す車載オーディオ製品を提案しています。



車載緊急通報装置向け音声ソリューションで自動車の安心・安全に貢献

事故自動通報システム (ACN: Automatic Collision Notification) は、事故時にエアバッグと連動して自動的に救助・救急機関へ通報するシステムです。ロシア・欧州ではすでに自動車への搭載が義務化され、日本を含めた各地域でも義務化の検討が進んでいます。ヤマハの車載音声ソリューションは、このシステムの通話品質向上のために使用され、クリアな音声での通話をサポートしています。

緊急通報システムの概念図



その他の事業

自動車用内装部品、FA (Factory Automation) 機器およびリゾートでも、
楽器の製造・販売を通じて蓄積した技術・ノウハウを生かして、お客様に満足いただける
製品とサービスを提供しています。

自動車用内装部品

木材加工や塗装の技術、デザイン力などを生かし、上質で快適な空間を
演出する自動車内装用意匠パネル製品を提供しています。



ヤマハ意匠パネルが搭載された車室空間



自動車内装用意匠パネル

ヤマハファインテック株式会社 | <https://www.yamahafinotech.co.jp/>

リゾート

豊かな自然の中で非日常の空間と高品質なサービスを提供し、
ヤマハにしかできない豊かな時間をつくり出しています。



葛城北の丸®
<https://www.yamaharesort.co.jp/katsuragi-kitanomaru/>



葛城ゴルフ倶楽部®
<https://www.yamaharesort.co.jp/katsuragigolf/>



電子回路基板用
導通絶縁検査装置

車載Li電池漏れ検査用
ヘリウムリークテスター

超音波式ヒートシール
検査機

FA機器

ヤマハの生産技術とシステムエンジニアリングで差別化を図り、
信頼性の高い機器を製造しています。

デザイン Design

日本ではデザイン機能を持つ企業が少なかった1963年、ヤマハはデザイン
部門を設立しました。以来、国内外のデザイナーやトップアーティストとの
協働などを通じて経験と実力を蓄積し、創業100周年を迎えた1987年に、
ヤマハデザイン共通のアイデンティティーとして「デザイン理念」を制定しました。
こうした基本的考え方をもとにお客様とのあらゆる接点をデザインし、お客様
の期待を超える製品・サービスの実現を推進しています。

5つのデザイン理念

- INTEGRITY** 本質を押さえたデザイン
- INNOVATIVE** 革新的なデザイン
- AESTHETIC** 美しいデザイン
- UNOBTRUSIVE** 邪魔ばらないデザイン
- SOCIAL RESPONSIBILITY** 社会的責任を果たすデザイン

本質を押さえつつ革新するデザインで、新たな価値を創造

電子ピアノ TORCH® T01

グッドデザイン賞
iFデザインアワード
Red Dotデザイン賞



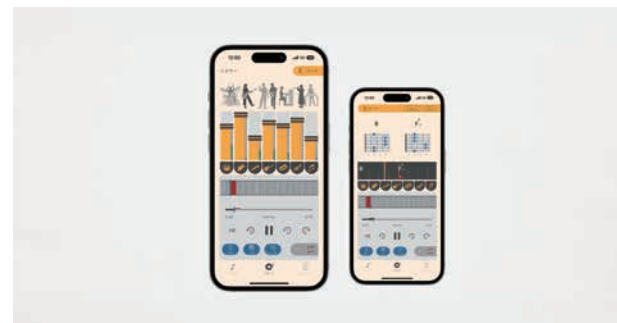
GOOD DESIGN
AWARD 2025

iF
DESIGN
AWARD
2026

reddot winner 2026

楽器演奏者向けアプリ Extrack®

グッドデザイン賞



GOOD DESIGN
AWARD 2025

電子ピアノ クラビノーバ® CLPシリーズ

グッドデザイン・
ロングライフデザイン賞



LONG LIFE
DESIGN AWARD

管楽器エントリーモデル 梱包箱

グッドデザイン賞
ペントアワード 金賞
ピープルス・チョイス・アワード・
ショートリスト



GOOD DESIGN
AWARD 2025

2025
Pentawards
Gold

2025
Pentawards
People's Choice
Shortlist

世界最大規模のデザインイベント「ミラノデザインウィーク2026」でヤマハの世界観を表現

今年で計7回目の出展となった「ミラノデザインウィーク」。「PARSLEY
(パセリ)」の展示タイトルのもと、当社のデザイナーたちが、現代における装飾の
あり方や可能性、言葉では説明しきれないその価値を表現した楽器やアート
6作品を展示し、デザインの観点から新たなビジネスや提供価値の可能性を
模索しました。常に楽器という特殊な道具に向き合う中、世界中から訪れる
人々の反応を肌で感じることで、デザイン哲学を深め、ヤマハデザインの
アイデンティティーを磨いています。



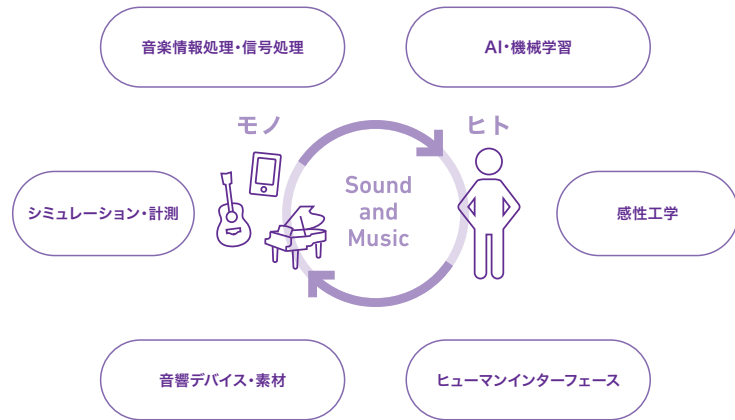
研究開発

Research & Development

ヤマハは、世界中の人々のこころ豊かにくらしに貢献するため、さまざまな分野の研究開発に挑戦しています。

<https://www.yamaha.com/ja/tech-design/research/>

「人」「モノ」「人とモノを結ぶ」の主に3つの領域において先端的な研究開発に取り組むことで、新たな価値や体験を創出し、音・音楽の可能性を広げています。



ヤマハの技術

楽器領域

木材改質技術
A.R.E.[®] (Acoustic Resonance Enhancement)

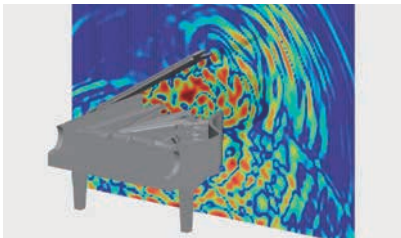
A.R.E.は短期間で木材を熟成させるヤマハ独自の木材改質技術。温度・湿度・気圧を高精度でコントロールする装置で、使い込まれた楽器のような深みのある音が出る木材へと変化させます。



A.R.E. 処理を施した木材で作られたバイオリン Artida[®] (アルティダ) YVN500S

アコースティック楽器における
振動・音響解析の研究

楽器本体の各部分がどのように振動し、その影響で楽器内部や周辺の空気がどのように振動し音が伝わるかなどの解析を、測定技術やシミュレーション技術を駆使しながら進めています。



ピアノの音を高精度な物理モデルに基づいたコンピュータ・シミュレーションで予測

音・音楽に対する人の感性を可視化
感性計測技術

人の感性をシステムとしてモデル化する技術。物理・心理・生理計測によりデータ化し、統計分析やAI技術によって可視化することで、人に寄り添った商品企画や設計を可能にします。



人の「感じ方」「嗜好」「価値観」などを可視化

価値創造の取り組み

ヤマハは、世界最大の総合楽器メーカーとして幅広い領域の製品を手掛ける中で、世界中の人々が音・音楽を心から楽しめるよう、最高の技術を追求してきました。そこから生み出された技術を有機的に結合しながら、新たな価値を創造し、お客様に驚きと感動をお届けすることを目指しています。

声でバスドラムを操るシステム「VXD[™]」

ヤマハと慶應義塾大学との共同研究プロジェクト「声でバスドラムを操るVXD」。「Real Sound Viewing[®]」の技術を応用し、演奏者の「ドン」という発声をマイクとセンサーで検知すると、それをトリガーとしてバスドラム内部の加振器を駆動し、バスドラムそのものを発音させます。この開発は、ミュージシャンズ・ジストニアを発症したロックバンド「RADWIMPS」のドラマーである山口智史さんの提案によりスタート。楽器づくりにおいて従来から培ってきた信号処理技術やノウハウなどを活用することで、極めて速いレスポンスや、山口さんが高い演奏感を得られるようなシステムをつくり上げています。この取り組みは、本質的な価値理解や広範囲の社会課題解決につながる事が期待され、ドラムの再現だけではなく、演奏する楽しさそのものを追求しています。



RADWIMPSドラマー山口智史さん

車室内空間を光で演出する「Music:AI[®] for Lighting」

再生される音楽の曲調や展開に呼応して、車室内の間接照明(アンビエントライト)を最適に制御して演出する新技術「Music:AI for Lighting」を開発。本技術は、すでに開発済みである車室音響の最適化技術「Music:AI」を照明演出へ応用したものです。再生される音楽の表現を的確に捉えることで、音の魅力を引き立てる光の演出を実現し、上質で一体感のある車室空間を提供します。



「Music:AI for Lighting」による音楽の曲調に合わせた車室内空間の演出のイメージ

ライブを無形の音楽・文化資産として遺す技術

「ライブの真空パック」をコンセプトに、収録した演奏データをアコースティック楽器で再現する「Real Sound Viewing[®]」に加え、空間演出も再現する高臨場感ライブビューイングシステム「Distance Viewing」を開発。それらを支える技術として、音響、映像、照明、舞台演出などのデータ形式を統一化する記録・再生システム「GPAP[®]」(General Purpose Audio Protocol)などを開発し、実証を重ねてきました。これにより、ライブ体験を保存して時間や空間を超えたりリアルな再現を可能にするほか、現代の音楽のみならず、伝承が危ぶまれる伝統音楽の保存・継承への貢献が期待されています。



早世したチェリスト・山本葉路さんの演奏を再現

3つの研究開発拠点

さまざまな専門分野の技術者が集結し、革新的な技術を創出している本社「イノベーションセンター」、音楽演奏や創作の新しい可能性を外部研究者と連携して追究する横浜「ミナラボ (MINA Lab: Music Informatics and New Applications Laboratory)」、アーティストやクリエイターとともに未来の音・音楽を模索する渋谷「Yamaha Sound Crossing Shibuya」。3つの拠点到わたる専門性・共創力を融合させながら、先進的な価値を生み出しています。



音響機器領域

イマージブオーディオシステム
Sound xR[®] Image

あらゆる空間でイマージブな音環境を創り出すオブジェクトベース方式の音像制御システム。最大128オブジェクトの音を自在にコントロールし、劇場やホールなどで臨場感あふれる体験を提供します。



マルチスピーカーによるSound xR Image再生システム

ミキシングを自律的に支援
DM7シリーズAssist機能

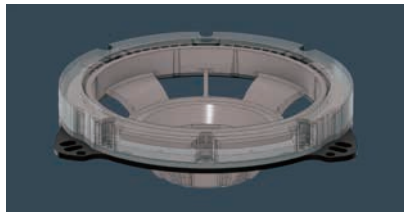
HA・Naming・Faderの各Assist機能が、適正レベルやアイコン/チャンネル名、フェーダーバランスの設定をアシスト。統計と数値で機械が人を手伝う機能を実現しました。



「機械による人の支援」にフォーカスしたAssist機能搭載のデジタルミキサーDM7シリーズ

車載スピーカーの新技術
Isolation Frame

スピーカーと車体を機構的に分離する独自技術により振動伝搬を抑制。音の歪みや共振を低減し、スピーカー本来の性能を引き出し、快適な車室音響空間を実現します。



スピーカーごとに最適化されたパネが車体パネルへの振動を抑制するIsolation Frame

音を起点とした新たな価値創出を目指すグローバルビジネスコンテスト「TRANSPOSE[®] Innovation Challenge」

当社は、新規事業創出のための仕組みづくり、オープンイノベーション活動の取り組みを進めています。「TRANSPOSE Innovation Challenge」は、「未来を創る挑戦を、世界中のイノベーターと共に」という狙いのもと、ヤマハおよびパートナー企業が、スタートアップの革新的な技術やプロダクト・サービスを持つ方々とともに、新しい事業や野心的なサービスを創出することを目指しています。音とテクノロジーを掛け合わせることで、社会が抱えるさまざまな課題を解決し、ビジネスそのものを進化させる取り組みを進めています。



サステナビリティ Sustainability

ヤマハグループは、世界中の人々のこころ豊かなくらしの実現を目指し、音楽文化の普及・発展への貢献や、地球規模の環境問題や社会課題への対応を通じて、持続可能な社会構築のための活動 ―サステナビリティ活動― に取り組んでいます。

ヤマハグループサステナビリティ方針

ヤマハグループは、長い歴史の中で、自然、社会、文化との繋がりを意識しながら、人々の「こころ豊かなくらし」を願い、さまざまな取り組みを行ってきました。木材をはじめとする自然素材を多く用い、匠の技により丁寧に仕上げられた製品は、世代を超えて引き継がれ、さらには、リニューアルされることで新たな命を与えられ、多くの人々に親しまれてきました。また、単に製品を販売するだけでなく、世界中の様々な国と地域で、自らの事業として、音楽文化の普及・発展に貢献をしてきました。それは、子供たちの器楽教育普及、音楽教室展開からトップアーティストのサポートに至るまで、実に幅広い活動です。こうした想いや取り組みは社会のサステナビリティに通じるものであり、130年を超える歴史の中で綿々と引き継がれ「ヤマハらしさ」を形造ってきました。

ヤマハグループサステナビリティ方針

ヤマハグループは、世界中の全ての人々が心豊かに暮らす社会を目指します。その実現のために、企業理念である「ヤマハフィロソフィー」を心のよりどころに、かけがえのない地球環境を守り、平等な社会と快適なくらし、心潤す音楽文化の発展に貢献するとともに、人権尊重はもとより、多様な人材が互いに認め合い活躍できる環境を整えることで、未来に

向かって新たな感動と豊かな文化を世界の人々とともに創りつづけます。この考え方に基づき、持続可能な社会の実現に向けた取り組みによる社会価値の創造を通じ、自らの中長期的な企業価値を高める為、マテリアリティを特定し、積極的にサステナビリティ活動を推進します。



環境に配慮した事業活動の展開

「ヤマハグループ環境方針」に基づき、事業活動における環境負荷の低減、環境に配慮した製品・サービスの提供、環境貢献活動を進めています。ISO14001認証取得など環境マネジメント体制を整備し、温室効果ガス排出量削減や環境汚染防止、木材資源の保全、持続可能な資源の利用などにグループ一体となって取り組んでいます。

温室効果ガス排出量削減の取り組み

ヤマハグループは「気候変動への対応」をマテリアリティとして特定し、経営重点テーマとして位置付けています。2025年11月には、ヤマハグループの温室効果ガス排出量削減目標について、SBT (Science Based Targets) イニシアチブより2050年ネットゼロ目標の認定を取得しました。ネットゼロの実現に向けて、2026年3月期には国内外拠点に新たに太陽光発電設備を導入したほか、本社事業所に続き天竜工場でも購入電力を100%再生可能エネルギー化するなど、再生可能エネルギー電力の導入拡大を進めています。こうした取り組みにより、グループ全体の再生可能エネルギー電力比率は25%程度まで高まっています。

持続可能な木材資源利用に向けた取り組み

楽器製造を中心に多種多様な木材を使用するヤマハグループは、木材資源の持続的な活用に向けた取り組みを進めています。「おとの森® プロジェクト」では地域社会と協働し、持続可能な森をつくるための調査研究、社会実装を行っています。タンザニアでは2015年から木管楽器に使われる希少木材「アフリカン・ブラックウッド」の調査研究を開始し、国際協力機構 (JICA) との連携 (2016~2019年) や林野庁補助事業採択 (2015年、2021年) などを経て、現地NGOと連携した住民参加型森林保全による安定調達に向けたビジネスモデルの構築と社会実装に取り組んでいます。現地のコミュニティにて2017年より定期的な植林活動を開始し、2026年3月には累計約33,000本 (面積約16.5ha) の苗木植栽を達成、「ウッドデザイン賞2024」 (主催：一般社団法人日本ウッドデザイン協会) を受賞しました。またインドや北海道においても希少材の育成および利活用の活動展開を進めるとともに、未利用材を活用したカスタネットづくりを題材とした木育ワークショップを展開しています。

希少木材への取り組みと並行して、調達する全ての木材に対する包括的なリスク評価 (木材デューデリジェンス) も実施。違法伐採や乱伐による木材の調達を防ぐために、毎年調査しています。さらに、専門機関と連携して「持続可能性に配慮した木材」の自社基準を制定し、2026年3月期現在で基準適合率71.3%を実現するとともに、さらなる向上を目指しています。

社会課題を見据えた製品・サービスの開発

当社の持つ多彩な技術を生かし、さまざまな社会の課題を解決し、新たな価値を生み出す製品・サービスの開発を進めています。

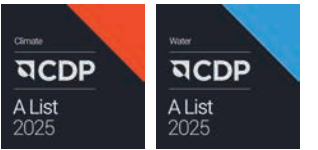
音のユニバーサルデザイン化を実現するSoundUD®

SoundUDは、音のある空間と情報、そしてその空間にいる利用者をつなげ、スムーズな情報伝達を実現する音のプラットフォームです。同技術を活用したサービス「おもてなしガイド®」は、言語や聞こえ方の違いを問わず、誰もが必要な情報にアクセスできる環境づくりを目指し、音のユニバーサルデザイン化をサポートしています。多言語での音声配信、文字表示に対応した「みえるアナウンス」や「スマホでインターホン®」などが、駅や空港、商業施設、スタジアムをはじめ多様な施設で採用されています。新たに発売の「スマホでレシーバー」はインターネット接続を必要とせず、利用者のスマートフォンに多言語で音声・字幕が配信でき、国際会議や各種イベントでの活用が広がっています。

自動伴奏機能付きピアノ「だれでもピアノ®」

ピアノを弾くことを夢見る手足の不自由な高校生の願いをきっかけに、東京藝術大学COI拠点とヤマハが共同開発した「だれでもピアノ®」。×ロディーを弾くと、AIがそのタイミングや速度に合わせて伴奏とペダルが追従するので、演奏経験やレベル、年齢に関係なく、自分のペースで演奏を楽しめます。2025年3月にはその最新機能を体験できるアプリ (β版) を公開し、自宅の電子ピアノやキーボード*でも自動伴奏機能を楽しめるようになりました。今後も、誰もがピアノ演奏を手軽に楽しめる体験を提供していきます。

*MIDI端子かBluetooth機能を備えた電子ピアノ/キーボード



CDP2025「気候変動」および「水セキュリティ」分野において最高評価「Aリスト」企業に選定



現地コミュニティでのアフリカン・ブラックウッドの植林活動



木材伐採業者への労働環境調査の様子

サプライヤーでの木材デューデリジェンスの様子



ローカル型 音声・字幕システム「スマホでレシーバー」



AIによる伴奏アシストで誰でも華やかな演奏を体験できる「だれでもピアノ」

音楽文化の発展と豊かな社会づくりへの貢献

ヤマハグループは、音・音楽で培った技術と感性を生かし、より多くの人々が音楽を楽しむことのできる機会づくりや活動支援、音楽、スポーツなどを通じたコミュニティ活性化への取り組みなど、さまざまな活動を実施しています。

新しい音楽の授業で未来を生きる力を育む「スクールプロジェクト」

まだ音楽教育が行われるための環境が十分ではない国に向けて、「新しい音楽の授業」の構築支援に取り組む「スクールプロジェクト」を展開しています。カリキュラムの構築支援や指導者の育成、教材や楽器の販売・提供を通して、公教育における音楽授業の普及を産官学連携で推進しています。多くの子どもたちが音楽や楽器演奏を学ぶ中で、未来を生きる力を手に入れ、こころ豊かな人生を送ることができる世界を目指して活動し、その実績は2026年3月末時点でマレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピン、インド、ブラジル、コロンビア、メキシコ、UAE、エジプトの10カ国、累計504万人に上っています。



コロンビアでの授業の様子

青少年育成のためのオーケストラ・バンド活動支援

犯罪や貧困、格差が深刻な社会問題となっている中南米では、子どもたちが犯罪・非行・暴力に走ることなく健全な精神を育めるよう、国の政策で無償の音楽教育活動が進められ、青少年育成を目的としたオーケストラやバンドが結成されています。ヤマハは「AMIGO Project」を通じて支援活動を行い、子どもたちに楽器のメンテナンス方法を伝授できるよう指導者向けワークショップを開催するほか、楽器の修理に対応できる技術者の育成を推進するなど、より良い環境で子どもたちが演奏を楽しめるようサポートしています。現在、アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、ペルー、ドミニカ共和国、ウルグアイの13カ国で展開しています。



ヤマハ・ミュージック・ラテンアメリカが支援する吹奏楽団

沖縄三線文化を「モノ」と「ヒト」からひもとく試み

沖縄県三線製作事業協同組合、琉球大学、沖縄県立芸術大学、東京文化財研究所（アドバイザー）が携わる共同研究「沖縄三線文化継承プロジェクト」に参画。後継者不足や材料の枯渇などの課題解決へ向け、ヤマハは長年培った楽器・感性研究の知見を生かし、木材の物性調査やふるまい可視化、音色の表現語調査などに取り組んできました。これらの研究は製作をはじめとする現場で役立てられ、三線をとりまく文化の継承と発展に貢献しています。2026年3月にはレクチャーコンサート「しまの音ー研究と演奏でひもとく、三線の未来ー」を開催し、三線の多様な音色を体感できる実演とともに、プロジェクトのビジョンや取り組みを紹介しました。

公益社団法人企業メセナ協議会が定めるメセナ活動
「This is MECENAT 2026」に認定



ヤマハ吹奏楽団による活動

1961年に創部し60年を超える歴史を持つヤマハ吹奏楽団は、ヤマハグループの従業員によって構成され、メンバーの多くが楽器製作に携わっていることから「匠のバンド」とも称されています。浜松での定期公演やヤマハ野球部の応援演奏、国内外のコンサートやコンクール出場などに加え、演奏活動を通じた地域への貢献を図っています。2024年には、「第72回全日本吹奏楽コンクール」で通算36回目の金賞を受賞したほか、2025年は石川県能登半島で演奏会を開催し、被災地に音楽を届ける活動にも取り組んでいます。



2025年11月に輪島市と能登町で開催した「ふれあいコンサート」

ヤマハ野球部による野球教室

1958年に創部したヤマハ野球部は、静岡県を代表する企業チームとして、浜松市をはじめ地域社会からも大きな期待が寄せられています。また、静岡県内での野球教室の開催など、地域におけるスポーツ振興の取り組みに積極的に協力しています。野球教室では少年野球チームへの技術指導のほか、幼稚園での「ティーボール教室」などを行い、現役選手が子どもたちと交流を深めながら野球の楽しさを伝えることで、次世代の健全育成に貢献しています。



子どもたちを指導する
ヤマハ野球部員

多様性の尊重と働きがいのある職場環境づくり

ヤマハグループでは、企業としてのさらなる成長・発展を目指し、ともに働く人々が感性・創造性を十分に発揮できる環境整備に努めています。

人材育成の取り組み

ヤマハグループで働く従業員一人ひとりが存分に能力を発揮し、自己実現を図りながらプロフェッショナルへと成長することを後押しすることで、ヤマハで働く価値の創出に努めています。教育・研修制度については、人事部門や各部門が主体となり、階層別教育や機能別専門教育研修を整備・運用するとともに、担当者間でのベストプラクティス共有や協力体制構築を通じ、人材教育の質向上を図っています。

また、こうした人材教育施策に加え、従業員の働きがいを高めることも、企業としてのさらなる成長に欠かせない要素です。そのためには、一人ひとりが経営ビジョンを共有し、事業戦略の実現に向けて自身が貢献している実感を持つことが重要となります。2025年3月期にはタレントマネジメントシステムの活用を一層進めるとともに、グループ中核人材育成施策や管理職の人事制度改定を実施しました。こうした人事インフラ基盤の整備を通じ、一人ひとりの成長を事業の成長へと結びつけ、働きがい向上と企業成長を加速させます。

創造的で挑戦的な組織風土の醸成

従業員が仕事・プライベート両面の充実と心身の健康増進を図りながら、いかに能力を発揮し挑戦できる組織を目指し、風土醸成や制度・職場環境づくりに取り組んでいます。風土醸成の面では、2021年3月期より実施している「働きがいと働きやすさに関する意識調査」の結果分析を通じ、従業員および組織の活力最大化の土台となる「風通しが良い組織風土」の醸成に努めています。職場ごとの活動の効果を一層高め、自律的に組織開発活動を推進できるよう、人事部門で後押ししています。また、社長が定期的に各職場を訪問し従業員と対話する時間を設けるなど、組織・立場を超えた多様なコミュニケーションの機会も創出しています。

職場環境の整備では、「安全と健康は全てに優先する」という基本方針のもと、事業活動に関わる全ての人の安全確保と、従業員およびその家族の健康保持・増進のための諸施策に取り組んでいます。定期健康診断や喫煙対策などの取り組みが評価され、経済産業省・日本健康会議が主催する「健康経営優良法人認定制度」では、ヤマハ（株）が5年連続・通算9回目となる「健康経営優良法人（大規模法人：ホワイト500）」に認定されています。

人権尊重とDE&Iの推進

ヤマハは「人権尊重」を企業活動の基盤と捉え、多様性を尊重し多様な人材を包摂する環境整備に努めています。人材育成においては、女性リーダーの継続的育成・創出により経営層・管理職層の多様性を高めるために、「女性活躍推進部会」で定期的に経営層と議論し、さまざまな施策を主導しています。その結果、管理職の女性比率は2026年3月期、グローバルで19.6%でした。

また、グローバルな事業展開に対応し、国籍にとらわれない人材の計画的な育成・配置を推進しています。全拠点の人材を対象とした選抜従業員向け研修に加え、国際間異動ルールの制定などのクロスボーダー配置推進基盤を整備し、ヤマハ（株）の本社がある静岡県浜松市からは「浜松市外国人材活躍宣言事業所」として認定されています。その他にも、アジア最大級のLGBTQ+関連イベント「東京プライド」への4年連続の出展やプライド月間を祝う取り組みなどを通じて、社会的マイノリティへのサポートに関する発信にも力を入れています。これらの取り組みが評価され、性的マイノリティに関する取り組みの評価指標「PRIDE指標」で7年連続で最高位「ゴールド」を受賞しています。



若手従業員を対象としたキャリアデザイン研修



中国生産拠点4社から選抜された工場監督候補者向け研修



次世代育成支援対策推進法に基づく
認定マーク「プラチナくるみん」



ヤマハ（株）が認定された
「健康経営優良法人（大規模法人：ホワイト500）」



東京プライド2026へのブース出展の様子
ヤマハのブースに立つ従業員ボランティアとLGBTQ+向け取り組みの紹介パネル



「PRIDE指標」の「ゴールド」マーク

創業



1887年

売上収益



4,653億円
事業利益 319億円

(2026年3月期)

売上構成比



国内 24.0%
海外 76.0%

(2026年3月期)

売上収益研究開発費比率



6.0%

(2026年3月期)

グローバル楽器市場シェア **No.1***

ピアノ



40%

電子ピアノ



51%

ポータブルキーボード



50%

管楽器



33%

ギター



13%

楽器 計



27%

*2026年3月期金額ベース、ヤマハ調べ

グローバルに広がるネットワーク

連結従業員数 17,886人

子会社数 61社

(2026年3月末現在)

Yamaha Music ID 登録数



800万ID

(2026年3月期)

GHG (温室効果ガス) 排出量削減率



Scope1+2
マーケット基準 39.0%
Scope3 44.9%

(2018年3月期比、2026年6月時点の集計値)

持続可能性に配慮した木材使用率



71.3%

(2026年3月期)

タンザニアでのアフリカン・ブラックウッド植林*



累計
約 3.3万本
16.5ha

*楽器素材となる希少樹種の育成・保全 (2017年3月期～2026年3月期)

YAMAHA MUSIC SCHOOL*の卒業生



550万人以上

*ヤマハ音楽教室

新興国における公教育での音楽教育施策の展開数



累計 504万人

(2026年3月期)

平均勤続年数*



18.2年

男性 18.8年 / 女性 16.1年

*ヤマハ(株) (2026年3月末現在)

一人当たりの平均研修時間*



年間 34時間

*ヤマハ(株) (2026年3月末現在)

従業員女性比率



グローバル* 40.4%
ヤマハ(株) 26.5%

*法令上の制約などにより一部グループ企業集計対象外 (2026年3月末現在)

従業員キャリア採用者比率*



27.0%

*ヤマハ(株) (2026年3月末現在)

育児休職取得率*



女性 100%
男性 70.8%

*ヤマハ(株) (2026年3月末現在)

有給休暇取得日数*



年間 16日/人

*ヤマハ(株) (2026年3月末現在)

数字で見る ヤマハ

ヤマハの特徴をデータでご紹介します

主要ネットワーク (2026年3月31日現在)

海外



会社名	所在地
1 Yamaha Corporation of America	アメリカ・カリフォルニア
2 Yamaha Guitar Group, Inc.	アメリカ・カリフォルニア
3 Córdoba Music Group, LLC	アメリカ・カリフォルニア
4 Yamaha Music Innovations, LLC	アメリカ・カリフォルニア
5 Yamaha Canada Music Ltd.	カナダ・トロント
6 Yamaha de México, S.A. de C.V.	メキシコ・メキシコシティ
7 Yamaha Music Latin America, S.A.	パナマ
8 アルゼンチン支店	アルゼンチン・ブエノスアイレス
9 Yamaha Musical do Brasil Ltda.	ブラジル・サンパウロ
10 Yamaha Music Europe GmbH	ドイツ・レリンゲン
11 フランス支店	フランス・クロワシーボーパール
12 イタリア支店	イタリア・ミラノ
13 イベリカ支店	スペイン・マドリード
14 UK支店	イギリス・ミルトンキーネズ
15 スカンジナビア支店	スウェーデン・ヨーテボリ
16 スイス支店	スイス・チューリッヒ
17 オーストリア支店	オーストリア・ウィーン
18 ベネルクス支店	オランダ・ニューウェガイン
19 ポーランド支店	ポーランド・ワルシャワ
20 Steinberg Media Technologies GmbH	ドイツ・ハンブルク
21 Nexo S.A.	フランス・ブライー
22 L. Bösendorfer Klavierfabrik GmbH	オーストリア・ウィナー・ノイシュタット
23 台湾山葉音楽股份有限公司	台湾・新北
24 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司	中国・上海
25 雅馬哈楽器技術培訓(上海)有限公司	中国・上海

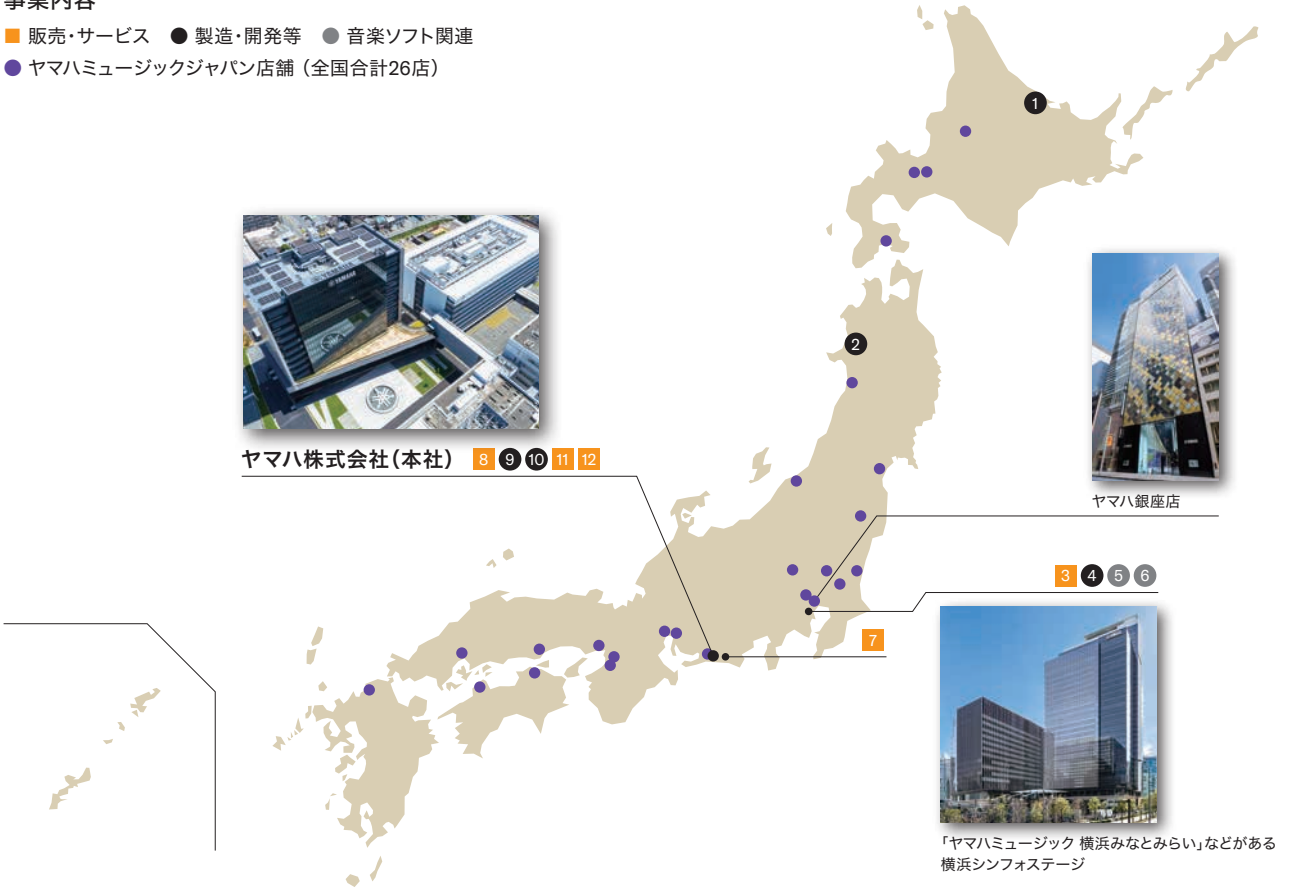
会社名	所在地
26 雅馬哈貿易(上海)有限公司	中国・上海
27 雅馬哈電子(蘇州)有限公司	中国・蘇州
28 蕭山雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
29 杭州雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
30 天津雅馬哈電子楽器有限公司	中国・天津
31 深圳雅馬哈楽器音響貿易有限公司 *1	中国・深圳
32 Yamaha Music Korea Ltd.	韓国・ソウル
33 Yamaha Music (Asia) Pte. Ltd.	シンガポール
34 Yamaha Music (Malaysia) Sdn. Bhd.	マレーシア・ベタリンジャヤ
35 Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn. Bhd.	マレーシア・イポー
36 PT. Yamaha Music Manufacturing Indonesia	インドネシア・東ジャカルタ
37 PT. Yamaha Musik Indonesia (Distributor)	インドネシア・中央ジャカルタ
38 PT. Yamaha Music Manufacturing Asia	インドネシア・プカシ
39 PT. Yamaha Musical Products Indonesia	インドネシア・パスルアン
40 PT. Yamaha Electronics Manufacturing Indonesia	インドネシア・パスルアン
41 Siam Music Yamaha Co., Ltd. *1	タイ・バンコク
42 Yamaha Music Vietnam Company Ltd.	ベトナム・ホーチミン
43 Yamaha Music Philippines Inc.	フィリピン・マカティ
44 Yamaha Music India Pvt. Ltd.	インド・グルグラム *2
45 Yamaha Music Gulf FZE	UAE・ドバイ
46 Yamaha Music (Russia) LLC.	ロシア・モスクワ
47 Yamaha Music Australia Pty. Ltd.	オーストラリア・メルボルン

*1 非連結子会社、関連会社 *2 製造拠点はインド・チェンナイ 44

国内

事業内容

- 販売・サービス ● 製造・開発等 ● 音楽ソフト関連
- ヤマハミュージックジャパン店舗 (全国合計26店)



会社名	所在地
1 株式会社ヤマハミュージッククラフト北海道	北海道紋別郡
2 株式会社ヤマハミュージッククラフト秋田	秋田県北秋田市
3 株式会社ヤマハミュージックジャパン	神奈川県横浜市
4 ヤマハサウンドシステム株式会社	神奈川県横浜市
5 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス	神奈川県横浜市
6 株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ	神奈川県横浜市
7 株式会社ヤマハリゾート	静岡県袋井市
8 ヤマハピアノサービス株式会社	静岡県浜松市
9 ヤマハハイテックデザイン株式会社	静岡県浜松市
10 ヤマハファインテック株式会社	静岡県浜松市
11 株式会社ヤマハコーポレートサービス	静岡県浜松市
12 株式会社ヤマハアイワークス *1	静岡県浜松市

*1 非連結子会社、関連会社

ヤマハ株式会社事業所・工場

本社事業所	静岡県浜松市
首都圏事業所	横浜オフィス 渋谷オフィス 大阪オフィス
豊岡工場	静岡県磐田市
掛川工場	静岡県掛川市
天竜工場	静岡県浜松市

企業ミュージアム・ピアノ工場見学のご案内



インベーションロード
ヤマハ本社事業所 21号館内
<https://www.yamaha.com/ja/about/experience/innovation-road/>



ピアノ工場見学

ヤマハ掛川工場 ハーモニープラザ
<https://www.yamaha.com/ja/about/experience/piano-factory-tour/>



※見学は予約制です。予約方法、見学実施日等、詳しくは上記QRコード、URLからご確認ください。

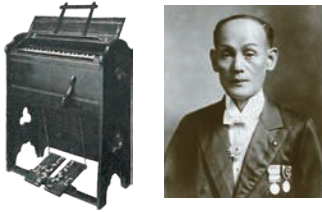


「感動」を世界の人々にお届けする、ヤマハ株式会社とヤマハ発動機株式会社

ヤマハ株式会社(当時の日本楽器製造株式会社)の金属加工技術、メカトロニクス技術から生まれたオートバイ部門が分離独立し、1955年、ヤマハ発動機株式会社が誕生しました。両社の経営は互いに独立していますが、ともに掲げる「お客様とともに感動を創り、こころ豊かな生活を実現し、社会と文化に貢献する」という「ヤマハ」ブランドの使命を実現するため、ヤマハは音・音楽を、ヤマハ発動機は多様なモビリティの提供を中心に、それぞれの事業活動を通じてさらなる成長を目指しています。

ヤマハの沿革

1887 山葉寅楠が浜松の小学校でオルガンを修理、同年にオルガン製作に成功



1897 日本楽器製造(株)を設立



1900 ピアノの製造を開始



1949 東京証券取引所に株式を上場

1954 「YAMAHA MUSIC SCHOOL (ヤマハ音楽教室)」の前身となる教室を開講



オーディオの製造を開始(HiFiプレーヤー)

1955 オートバイ部門をヤマハ発動機(株)として分離

1958 メキシコに販売子会社 ヤマハ・デ・メヒコを設立



1959 スポーツ用品の製造を開始 ※2026年事業終了
電子オルガン(エレクトーン®)の製造を開始

1960 米国に販売子会社
ヤマハ・インターナショナル・コーポレーション
(現ヤマハ・コーポレーション・オブ・アメリカ)を設立

1962 リゾート事業を開始

1964 リビング用品の製造を開始(FRP製バスタブ)
※2010年リビング事業子会社の株式を譲渡

1966 管楽器の製造を開始



財団法人ヤマハ音楽振興会発足(2011年、一般財団法人に移行)

西ドイツ(当時)に販売子会社 ヤマハ・ヨーロッパを設立

1968 日本初の株式時価発行を実施

1972 半導体の生産を開始 ※2015年ファブレス化

1980 ヤマハピアノテクニカル
アカデミーを設立



1984 産業用ロボット(FA機器)市場に参入

1987 創業100周年を機に、
社名を日本楽器製造(株)からヤマハ(株)に変更

1989 中国に電子楽器製造・販売子会社
天津ヤマハ電子楽器を設立

2002 中国に投資管理会社 ヤマハ楽器音響(中国)を設立
ドイツに欧州統括会社
ヤマハ・ミュージック・ホールディングス・ヨーロッパ
(現ヤマハ・ミュージック・ヨーロッパ)を設立

2005 ドイツの音楽制作用コンピューターソフトウェア
開発・販売会社 Steinbergを買収

2007 音楽ソフト事業統括会社(株)ヤマハミュージック
エンタテインメントホールディングスを設立

2008 オーストリアのピアノメーカー Bösendorferを買収
フランスの業務用スピーカー製造・販売会社 Nexoを買収

2010 ピアノ国内生産拠点を
掛川工場へ統合



2012 管楽器国内生産拠点を豊岡工場へ統合

2013 国内の楽器・音響機器卸販売および教室事業を行う
(株)ヤマハミュージックジャパンを発足

2014 米国の楽器・音響機器メーカー Line 6
(現ヤマハ・ギター・グループ*)を買収
*2018年 Ampegブランド、2023年 Córdobaを買収

2018 研究開発拠点イノベーションセンターを開設

2019 インドの販売子会社 ヤマハ・ミュージック・インドシアに
工場を新設

2021 ヤマハ銀座店を「ブランドショップ」としてリニューアルオープン

2024 体験型ブランドショップ
「ヤマハミュージック
横浜みなとみらい」を開設



ブランド発信拠点&研究開発サテライト施設
「Yamaha Sound Crossing Shibuya」を開設

2025 米国シリコンバレーに事業開発・CVCファンド運営管理会社
ヤマハ・ミュージック・イノベーションズを設立

会社情報

会社概要 (2026年3月末現在)

会 社 名	ヤマハ株式会社	連 結 従 業 員 数	17,886人 (ほか平均臨時雇用者数5,730人)
本 社	静岡県浜松市中央区中沢町10番1号	地域別従業員数	日本 5,574人、北米 754人、欧州 1,101人、 中国 3,937人、その他 6,520人
創 業	1887年(明治20年)	子 会 社 数	61社 (うち連結対象57社)
設 立	1897年(明治30年)10月12日	関 連 会 社 数	5社 (うち持分法適用関連会社1社)
資 本 金	285億34百万円	上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場 (証券コード7951)

役員 (2026年6月29日現在)

取締役			執行役		
取締役会長	中田 卓也	指名委員	代表執行役社長	山浦 敦	
取締役	山浦 敦		常務執行役	押木 正人	楽器事業本部長
社外取締役	篠原 弘道	指名委員(委員長)、報酬委員	執行役	後藤 敏昭	楽器事業本部副本部長兼 音響事業本部副本部長
社外取締役	吉澤 尚子	監査委員	執行役	徳弘 太郎	業務本部長
社外取締役	江幡 奈歩	監査委員	執行役	鳥羽 伸和	音響事業本部長
社外取締役	伊藤 秀二	指名委員、報酬委員(委員長)	執行役	西村 淳	楽器事業本部副本部長兼 音響事業本部副本部長
社外取締役	野上 宰門	監査委員(委員長)	執行役	北瀬 聖光	新規事業開発部長
社外取締役	ケリー・ワリング Kerrie Waring	指名委員、報酬委員	執行役	庄門 充	経営本部長

ヤマハフィロソフィー

「ヤマハフィロソフィー」は、「企業理念」「顧客体験」、
そして「ヤマハクオリティー(品質指針)」「ヤマハウエイ(行動指針)」からなるヤマハグループの理念体系です。

私たちは、常にヤマハフィロソフィーを心のよりどころにしながら、
お客様の視点に立ち、期待を超える製品とサービスを生み出すことで、
未来に向かって新たな感動と豊かな文化を創りつづけます。

◆ 企業理念

ヤマハグループは何のために存在するのか、何に
向かって仕事や経営を行うのかを示しています。

◆ 顧客体験

企業理念をお客様の視点から具体的に示したもので、
お客様がヤマハグループの製品・サービスを
手にし、使用された時に、心と五感で感じていただく
ことができる体験を明示したものです。

◆ ヤマハクオリティー (品質指針)

企業理念を具現化するために、製品・サービスに
込めたこだわりや、モノづくりに対する基本的な
考え方を指針として示しています。

◆ ヤマハウエイ (行動指針)

企業理念を具現化するために、ヤマハグループの
全従業員が日々、何を意識し、どのように行動
すべきかを指針として示しています。

